尾道松江線開通に伴うわがまち活性化の取組





本市は、広島県の北東部、中国地方のほぼ中央に位置し、東は岡山県、北は島根県・鳥取県に隣接する"県境のまち"です。

面積は1,246.6km2。広島県の約14%を占め、 全国自治体の中で12番目、近畿以西では最大 の広さ(平成23年4月1日現在)となっています

西城地域

総領地域

庄原地域

高野地域

口和地域



高野地域の概要

現状・特性

- ●特徴的な気象・地理条件(標高550m付近に集落が点在 平均気温10.6°C、中国地方有数の豪雪地帯)
- ●多彩な農産物生産と高い営農意欲(気象条件を活かしたダイコン、ホウレンソウ、トマトなど高原野菜やリンゴ・米などの農産物生産が盛ん。 高い営農意欲。【300万円以上の農産物販売規模別農家数(農業経営体[家族経営]に占める割合)は、庄原市平均の6.8%に対して高野地域は19.1%(2005年農業センサス)】







課題

- ●人口・農業就業人口の減少と高齢化 →農業の衰退と地域活力の喪失 (昭和35年4,983人→平成23年度末2,067人)
- ●日帰り観光が主体、土産物等のアイテム不足 →観光消費額の低迷 (一人当たりの観光消費額は1,157円)
- ●ストロー現象への懸念 幹線交通網の整備による行動圏の拡大・利便性向上 →都市部への人口流出 →地域活力の喪失

中国横断自動車道尾道松江線開通 高野IC開設

(平成25年3月30日)

「道の駅たかの」オープン

(平成25年4月12日)





目標と手法

農業と観光を基軸とした地域の活性化

高野地域の魅力をブランド化

- 農業所得 10%アップ(H17:現状:4億6,755万円→H27目標:5億1,500万円)
- 観 光 客 倍増(現状: H21:14万人→H27:目標28万人)
- 観光消費額 3倍(現状: H21: 1億6,200万円→H27:目標4億8,600万円)

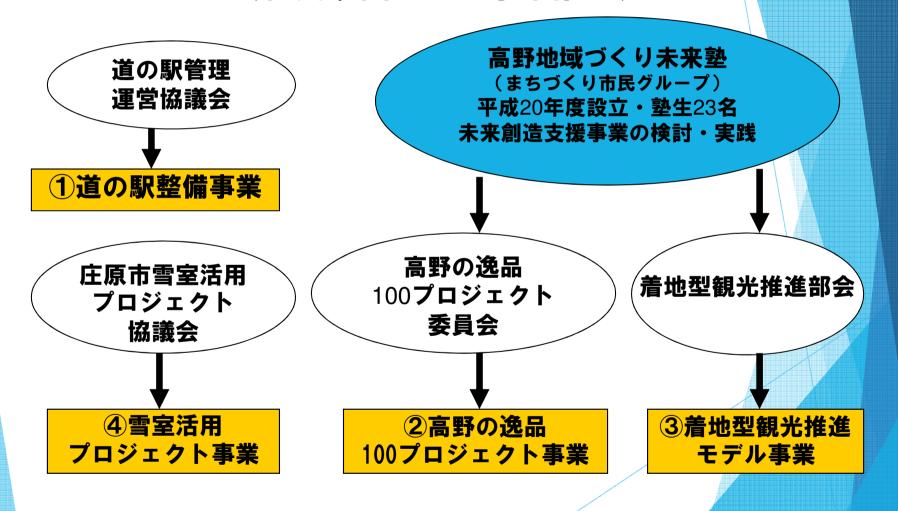
広島県の未来創造支援事業を活用

- ①高野観光交流ターミナル(道の駅)整備事業
- ②高野地域着地型観光推進モデル事業
- ③高野の逸品100プロジェクト事業
- ④雪室活用プロジェクト事業



事業推進体制

(住民参画による事業推進)



(1) 高野観光交流ターミナル(道の駅)整備事業 【取組状況】

【取組状況】

- アドバイザーの設置(専門家のノウハウを活用・人材育成)
- ・「道の駅管理運営協議会」設置(「市民が創る道の駅」という主体性)
 - ■ワークショップを月2回程度開催(3年間で60回)
 - ■視察研修 ■研修会や講演会開催

【成果】

- ・道の駅のコンセプト・名称・ロゴマーク・キャッチコピーの決定
- ・道の駅の平面図・外観・内装について意見集約
- ・出荷者協議会の設立



アドバイザーによる助言



道の駅「たちばな」(福岡県) 視察研修



道の駅たかのロゴ

高野の逸品100プロジェクト事業【取組状況】

【取組状況1】

- ☆ 高野の逸品100プロジェクト委員会を設置
 - ・加工品の開発支援
 - ※ 専門家のアドバイス(商品開発・販売・流通指導、パッケージデザイン支援) 特産品開発講座、研修会等の開催による住民啓発
 - ・「高野の逸品」ブランド認証の仕組み作り
 - ※「高野の逸品」の認証 (平成26年1月末 89品目認定)

【取組状況2】

- •販売支援
 - ※お中元・お歳暮ギフト販売、店頭でのテスト販売等
- •ロゴやPOPの作成
- ・高野の逸品カタログ作成



高野の逸品 認証マーク

生産者へのコンサルティング

(商品開発・販売・流通指導)







パッケージ デザイン支援











お中元・お歳暮ギフトの販売

地元農産物を使用した特産品「高野の逸品」のお中元ギフト・お歳暮ギフトを販売しました。 高野の特産品をふんだんに使った「高野スウィーツセット」や、「高野大根食べ比ベセット」などを用意。 「ふるさとの味」を届けるギフトの地産地消を推進。









↑箱詰め作業に追われる生産者の皆さん↑

パンフレット作製 特産品の見える化





高野地域着地型観光推進モデル事業【取組状況】

~体験メニューや農村民泊等、着地型観光の推進~

【取組状況】

☆ 着地型観光推進部会を設置

庄原市観光協会との連携や専門家のノウハウを活用

・体験メニューの開発やブラッシュアップ

※講演会やワークショップの開催による人材育成と研修会等による体験メニューの 開発

(体験メニュー30品目[H26年1月末現在])

- ・「農村民泊」の推進
 - ※視察研修の実施、モニターツアーによる実践 (民泊家庭19軒〔H26年1月末現在〕)
- ・地域に合った教育旅行の誘致
 - ※高野農村体験交流協議会(遊☆学☆隊)の設立(H24年11月)
- ・観光プラットフォームの構築(「道の駅たかの」との連携)

先進地視察研修

安心院町グリーンツーリズム研究会 (大分県宇佐市安心院) 民宿 たかやす (長野県大鹿村)





モニターツアーの実施



- 入念な打合せ
- おもてなしの心
- 盛りだくさんの体験メニュー
- 農村民泊の実践
- 観光プラットフォームの実践研修



体験プログラム インストラクター研修(全6回)

専門家のアドバイスにより、実際に「体験プログラム」を自分たちで組み立てる手法などを 学びました。



↑りんご園を会場にして体験プログラムを実演





↑体験プログラムを自分達で考える









ありがとうございました。